

会 議 録

会議の名称	第3期西東京市子ども読書活動推進計画策定懇談会第3回会議録
開催日時	平成27年8月19日（水） 午後2時から4時
開催場所	谷戸図書館 読書会室
出席者	宮川委員 服部委員 鈴木（綾）委員 倉内委員 尾関委員 堀委員 吉澤委員 大友委員 上岡委員 森委員 安中委員 （欠席 鈴木（壮）委員、今西委員） 事務局 奈良図書館長 北嶋柳沢図書館地域館長
傍聴者	0名
議 題	1 第3期西東京市子ども読書活動推進計画 小学生、中・高校生及び乳幼児部分の検討 2 各機関選出委員からの報告 3 今後の日程確認について
会議資料の名称	資料1 所管課 学校・教育指導課における現況と取り組み 資料2 所管課 児童青少年課における現況と取り組み 資料3 所管課 図書館における現況と取り組み 資料4 所管課 保育課における現況と取り組み 西東京市子ども読書活動推進計画策定懇談会第3回日程 第3期西東京市子ども読書活動推進計画策定懇談会第2回会議録
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会 議 内 容	
<p>●座長 会議を始めます。まとめ方であるが、ゴールを考えると、未整理な部分が多いが、まとめることを考えると、議論が深まらない。もう1つ、起草委員会があるので、まとめ方についてはそこで考えることにする。今回はそれぞれの現場での取り組みについて、具体的なお話をいただき、意識を共有していきたい。 起草委員会を発足させて、そこでフォーマットをどのようにするのかを考えるので、今日は、配布されている資料に沿って進めていく。 小学生（学校提出部分）部分は改訂版であるが、どこが改訂されているか。</p> <p>●A委員 前回話した蔵書数と蔵書内容の充実を図るということを盛り込んだ。単元を貫く言語活動で話しがあったが、このことについても述べた。</p> <p>●座長 質問は何かあるか。</p> <p>●副座長 中学校における書評会みたいなものを小学生では検討されていないのか。</p> <p>●A委員 中学校の書評会に該当するものは聞いていない。本を薦めあうというのは、読書郵便というのがあって、読書旬間の時に行われるが、自分のお薦めの本を書いて、知り合いの友だちに手紙で送ることをやっている。</p> <p>●副座長 取り組みに書いているか。</p> <p>●A委員 読書旬間の取り組みで、具体的な部分なので書いていない。</p>	

- 副座長 そういう具体的な事項のほうが分かりやすい。読書郵便という言葉は誰もが知っている言葉ではない。書評会も最初は1校であった。共有することが大切である。
- B委員 子ども同士の本の紹介はどこでもやっている。お薦めの本のポスターやポップを作るなどいろいろ取り組んでいる。子どもの表現として、他の子への働きかけをしていこうという良い活動だと思う。学校に行くと壁に貼ってあったりして、話しのきっかけにもなるので、これは、計画に書くと良い。
- 副座長 今回はこうだったという報告ではなく、計画なので、中学校での書評会が発展し成功しているのだとしたら、高学年になったら自分の考えを述べたり、まとめたりするミニ書評会があったら良いと思う。
- 座長 国語科における単元を貫く言語活動と関係がある。土曜週休になり全体的な学習時間が減った上、総合的な時間が入ってきた。教科の時間や国語科の授業も減り、教科書も薄くなった。授業の中で動いていることを学校図書館がサポートしていくことが実際には大きなことになっている。
- B委員 中高生のレベルであるが、図書館が先生からの依頼で本をそろえる話しが出ていたが、調べ学習のところで、比較的国語科のものになっているのが気になった。調べ学習というとパソコン室に行ってしまう。自分でいろいろな資料に当たる、手持ちの資料と学校から借りている資料で調べてやっていくということを教えることを計画の中で位置づけていくのもいいと思う。学校で持っている資料の使い方、自分が知りたい事柄があった際に、インターネットで調べれば良いということではなく、過去からの資料で調べるというのも示したい。
- A委員 学校図書館を調べ学習で使って欲しいのだが、授業の中でやっているの、現状では、一部の教師から、授業に関連した資料の依頼があり、集めている。
- B委員 3期の計画であるから、そこに入れたい。
- 座長 今の意見であるが、今回のまとめ方で、子どもたちを年代別に捉えて、それぞれの課題、子どもたちにいろいろな供給ができるかどうかを整理するといいい。子どもたちが大人になった時に、生涯読書というのか、ずっと読書人として生きていけるような読書の基礎体力のようなものを各年代別に培っていくというのが大きな目標である。小学校だったら、日常の中で出会った問題とか学校の授業の中で出会った問題のようなものを、自分で考えていくことができるように、また、どうい本を見たらいいとか、どういメディアから情報を得たらいいかを自分の中で組み立てていったらいいかを皆で支援するイメージかと思う。支援するのは、家庭であったり、学校だったり、地域の図書館だったりいろいろだけれども、そういうことが、今回動き出せばいいと思う。
- B委員 自分の能力というか本を使って調べることが出来るといいい。これが、今回の計画の目標であると思うので、大人たちはどうい立場で支援ができるのかを考えていくべきだ。学校は親ができないことをしてくれる場所である。
- 副座長 子どもたちが本について語り合う場があればいいと思うが、書評会そのものが、中学では都立受験の子どもの手段という認識がある。文庫でも子どもに参加を促すが、そういうのを聞くと残念に思う。無邪気に子どもが本について語る場であって欲しい。昔は親子読書があったが、今も必要なのでは。
- B委員 計画も3期ということで積み重ねだ思う。
- 副座長 本に対する理解が、お勉強だとか国語力だとかそういうのを離れて、人生を豊かにしてくれるものとして、大きく理解されればと思う。

- 座長 さっき言った事が目標とすると、それぞれの年代で促せる時間と場所と促しに伴う情報や本の内容の条件が整えられていくとうまくいくと思う。「育てたい子ども像」を最初に語って、年代別の課題を語って、各年代にとって学校はどういう意味なのか、地域の図書館はどういう場所なのか、尚かつ、子どもがそれらの場所ですぐ行動できるのか、若い子どもが自分で行動するのは難しいが、中学生なら当然自分で選んで見定めていけるが、そういうモデルとしての子ども読書人みたいなのが各年代で語ればそれが計画になる。
話しは小学生に戻るが、学童と地域の図書館と家庭文庫は小学生にとっては自分が過ごせる場所である。児童青少年課からはどうか。
- C委員 小学生のところでは読み聞かせが盛んであるのでこれを掲げた。0歳のサークルの中では職員が読む。午後の小学生に関しては職員がやっている児童館もあるが、ほとんどが地域の読み聞かせボランティアである。各児童館、地域の団体に頼っているところがある。学童クラブでも読み聞かせボランティアが入っているところもいくつかある。児童館併設の学童クラブでは、学童で読み聞かせを行うのではなく、児童館に来てもらって行う。子どもは学童からも参加している。参加は自由である。
- B委員 学校併設の学童だとどうなのか。
- C委員 たまに行っている。
- 事務局 学童には本があるのか。
- C委員 本はある。子どもたちは本が好きである。身近に本があるように学童にも児童館にもある。
- 座長 選書については。
- C委員 人事交流があり、アドバイスをもらっている。
- 副座長 そういうサービスもここに書かれていた方がいい。本に関しては何も無い。
- C委員 2期ではあったが、載せた方がよければ学童独自のことも掲載をする。
- 副座長 児童館の先生が本をそんなに把握していなくても良いわけで、もし、連携があるなら書いておいた方がいい。
- 座長 小学生と公共図書館はどうなのか
- 事務局 窓口は学校司書が多い。ただ、学校によってだが、担任から電話をもらい、図書館見学や町たんけんなどを行い、団体貸出をすることがある。
- 座長 文庫はどうか。
- 副座長 文庫には結構来てくれる。4年生ぐらいになったら読みきかせをしたがるので、幼児にしてもらふことがある。手応えがあると、もっと読んであげたいくなるようだ。とても感情こめて上手に読む。
- 副座長 先日、埼玉県の小川町図書館に行ったが、図書館見学をした子どもたちの感想が掲示してあった。学校と図書館との連携があることが分かるというの面白いと思う。
- A委員 私も横のつながりがあるといいと思う。今回の計画も横のつながりを大切にしようというコンセプトで作っていきこうとなっているので、関係部署との連携のとり方をどのようにするかということころだが、今連携があるといっても、担当者同士がやっているだけである。子どもたちにまとまって何か働きかけができないかを、この計画に入れられないかと思う。具体的には、話し合いの場を持てれば良いと思う。図書館・児童館・学童クラブで話し合い、どこで何の本を置くべきか連携をしたい。これは選書だけでなく、本の紹介も入れたい。本

の協力関係を入れたい。

- 事務局 図書館の資料を充実させて、資料費の少ない児童館へは団体貸出で補う。
- 副座長 図書館が発信している情報を得るのがいいと思う。
- 座長 計画は具体的には語ることはできない。各年代を語り、各年代に対しての課題に対して、各施設は何をできるかを語り、お互いの協力を語っていくようになると思う。中学校に対して補足は。
- A委員 中学校は書評会が一番大きいけど、位置づけが把握できていない。ブックフェスティバルも毎年開かれるのか、未定である。中学校は職場体験の受入れを図書館がした。
- B委員 中学校の学級文庫はあるのか。
- 事務局 保谷中が試行でやっている。
- D委員 四中では、各学級に担任が置いていたようだ。また、学校の図書室から借りて置いていたようだ。
- A委員 小学生で言えば、学校図書館および市立図書館から借りている場合がある。
- 副座長 朝読はとても大きい。
- B委員 本を読むのが嫌な子どもに対してはマンガはダメといわれているが、その場合は教科書を読むらしい。
- 副座長 文庫に来ている子に「図書館おもしろいでしょう」と聞くと、行ったことがないと言われる。行ったことがないなら、学級文庫という形で図書館にある本を持ってくればいい。
- D委員 中学になると受験主体となる。もちろん、書評会のポスターもあるが、それに出られるのは成績のいい子どもだけという意識がある。皆、部活や塾で忙しくて行くことができる子どもはとても少ない。
- E委員 書評会は、受験の集団面接の準備・練習のために参加する感じである。
- A委員 小学校だと1年生と6年生では読書力が全く違う。1年経つだけで読む本ががらりと変わる。中学へ行くと読書の差というのが減っていく。但し、読む人と読まない人の読書力というか読む本の差が広がっていく。そこで、図書室はどこに働きかけるかという問題があると思う。以前中学で、下の子たちに働きかけようという何か大きなことをして、皆で集まろうという企画をした。好きな本を教えてあげる、好きな本を全部入れて、座って皆で集まって話をしようという場になった。皆が考えている図書室とは違う。人が集まって、1ヶ月、2ヶ月と続いていくと、それなりに本を借りていくようになる。少しずつステップを上げていくという運営の仕方、どういう風に働きかけるかというのがひとつ問題となると思う。本があまり好きではない子どもたちに図書室としてできること、どのように働きかけるのかということを考えていといけない。
- B委員 昨年の田無三中の人権教育を主とする取り組みの中で、司書教諭の先生が、全学級夏休みの課題として、葉書サイズの書評カードみたいなものを作成し、先生がプロジェクターにして、大きくしてくれて、それを見ながら3分間スピーチをして交代で発表をしていくということをしていた。取り上げている本は、テーマは重たいが絵本であった。絵本なので、読みやすいし、紹介しやすい。中学生で忙しくて本が読めないような子どもに対して働きかけることはできると思う。中学生は友だちに紹介された本は読む。そういう意味では図書室が開く時間が増えて欲しい。単に本を読むだけではなくて、ぼーっとして

もいいし、勉強していてもいいんだよという場所としての図書室があると、疲れた子どもがホッとする場所としても思春期の子にとって図書室は大事な場所であって、いつも開いていると良いと思う。

●D委員 夏休みに中学生の娘の図書室に行ってきた。とてもいい施設なのに人がいなかった。人気がある本もシリーズで揃っている。夏休み前に長く借りられる期間に借りないのがもったいない。

●B委員 忙しい中学生にもうちょっとアピールができればいいのだと思う。公立図書館では何百人待ちの本も、すぐに入手できる状態である。

●座長 市図書館はどここの館にもYAコーナーはあるのか。

●事務局 どここの館にもある。

●座長 小中学校の話は大体切り上げるとして、E委員何か。

●E委員 小学校の図書室は開いているのが見たことがなくて、子どもが行っている小学校は図書の時間終了後すぐに閉めてしまう。

●D委員 専科の教師が開けている場合はそのような対応になる。

●副座長 学校司書がいる週は違う。20分休みでも昼休みでも子どもたちがたくさんいて、図書委員が貸出しをしている。

●座長 今のような観点でいいのだが、乳幼児に進む。保育課から願います。

●F委員 実際に書かれているものが、保育園にそぐわない物があったので、書き換えた。小さい子どもなので絵本という楽しみもあるが、お買い物品の品になったり、おもちゃという側面も出てきたり、もっと小さい子どもであったら、かじって何なのか確かめたりする。保育園になると、絵本の修理をしながら、絵本の扱い方を教えながら教えるというのが入ってくると思う。

次に読書指導の充実であるが、保育園の子どもに指導というのはニュアンスが違うように思うが、そのまま別の言葉が思いつかないので使っていく。子どもたちがたくさんいろいろな本に出会って読んでもらう時間を多く持てれば良いと思っていて、この保育園時代では絵本の楽しみ方というのは、自分の近い人に読んでもらう、字を追うのではなく絵を楽しむ、絵を楽しみながら声を聞いて、世界が広がっていくという、読んでもらうという体験が小さい時にあるか、それを自分の好きな人にしてもらえるかというのに尽きると思う。集団で大きなクラスになれば20人ぐらいで1つの絵本を読む時間もあるが、一対一で絵本を読むという時間を大切にすることを保育園では気をつけていきたいところである。家庭への啓発の部分でもこのことを伝えていければいいと思う。

前回の計画のところから地域子育て支援センターという言葉が出てきているが、今、西東京市の公立保育園で5園ある。そこでは毎日地域の保護者の方が小さな子どもたちを連れて、毎日来る。センターには、兼任のコーディネーターがおり、そこで、ひろばの事業を行うのだが、その中で、おはなし会とか、お誕生会があるが、その際に絵本を読む場面を設けている。絵本は一緒に読むと楽しいよというのを伝えていきたい。絵本は楽しいよという第一歩かなと思う。体験だが、年長のクラスは図書館へ出て行ったり、「もぐらの会」の方に来ていただいて年4回おはなしの時間を設けて楽しんでいく。今、保育園で課題と言われている部分は、人材育成と職員の研修である。職員の研修は絵本・素ばなしがあったが、今年度から研修の形態が変わ

り、それらがなくなった。保育士一人ひとりについて、本が好きか、関心があるか、個人の力量であるとか、興味であるとかそういうところに職員の中に絵本、素ばなしを保育としてどのように位置づけをするのが今年度の課題である。

関係部署というところでは、小学校のところの話をきくと図書館司書の力を借りているというので、時間内に研修を持つことができなくなったことであるし、図書館の司書の力を借りるというのもいいと思った。

- A委員 保育園でいう読み聞かせとは、どのような形でやっているのか。1日何回やるのか。
- F委員 自然な流れで読む。お昼寝の前。おおむね2・3回ある。時間の決まりはない。
- B委員 地域子育て支援センターとして本の貸し出しをしているのか。保育園として持っている本の蔵書を貸しているのか。
- F委員 どちらでもいい。園の本棚は0歳から5歳まで、センターはより年齢が小さくなるので赤ちゃん向けをそろえている。
- 副座長 幼い子は一対一が基本で少人数で楽しむのが本来の姿。読み聞かせというのは本来そういう形であって、図書館での読み聞かせの見せ方は違うと思う。2歳くらいの子では、先生の即興のお話、ゆみちゃんが雨の日にころんだ話とかそういうのから入れたらいい。0歳児だったら、わらべ歌というものが、最初の共通言語だと思う。「子どもの読書活動」というのは」という形成についてだけ書くだけではなく、実際にされている先生のお話を書いていただきたい。
- 座長 具体的なレベルで話してきた。今後どうするのか。
- 事務局 ご指摘もいただいたので、一度まとめ、たたき台を示せるようにしたい。いろいろな計画のまとめ方があると思うが、起草委員会を設置する用意はしてあるので、今やったところのたたき台の提案をしてはどうだろうか。
- 座長 まとめの形をにらんだ形である。起草委員会のメンバーは。
- 事務局 人数は7名、市職員を除いた委員で構成させる。事務局は参加する。
- 座長 起草委員会でやったことを、この策定懇談会にかえず。1回起草委員会をやってみる。9月17日をそれにあてる。作業の下準備が必要である。イメージとして育てたい子ども像、各年代での課題、その課題がどのように汲み取れるのかを語る仕組みを各施設で作るでいいと思う。座長が大雑把なものを作り、それを事務局と協力して作ればいい。
- 副座長 ホームページでいろいろな自治体の子ども読書活動推進計画が確認できるので、見てきてください。東村山とか北区とか。
- 座長 今日まで話したことを落とし込むしくみを作る起草委員会を9/17にする。

第1回起草委員会 9/17(木) 午後2時～4時 谷戸図書館会議室

第4回策定懇談会 10/14(水) 午後2時～4時 谷戸図書館会議室(予定)